

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 36 回松阪市子ども・子育て会議
2. 開 催 日 時	令和 7 年 1 月 30 日（木） 午後 6 時～午後 7 時 3 0 分
3. 開 催 場 所	健康センターはるる 3 階 健康増進室
4. 出席者氏名	（委 員） ◎青木信子、大橋信、齋藤都、塩谷明美、木許千賀、濱田壽々子、橋本淳平、加藤健二郎、稲垣恵理、中村友美（◎会長） （事務局） 西浦美奈子、森本亜由美、鈴木智美、浮田恵、加藤知孝、若林由子、西井哲史、勝田茂樹、荒木章次、池田博紀、西浦有一、小泉恵希、小泉明弘、山岡恵、北川高宏
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市健康福祉部こども局こども家庭センター子育て応援係 電 話 0598-20-8087 F A X 0598-26-0201 e-mail kod.katei.c@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 松阪市こども計画（案）について
2. 今後のスケジュールについて

議事録

別紙「第 3 6 回松阪市子ども・子育て会議議事録」の通り
第 3 6 回松阪市子ども・子育て会議議事録

日 時：令和 7 年 1 月 3 0 日（木） 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0

場 所：健康センターはるる 3 階健康増進室

出席委員：青木信子、大橋信、齋藤都、塩谷明美、木許千賀、濱田壽々子、橋本淳平、

加藤健二郎、稲垣恵理、中村友美

欠席委員：森小百合、水谷大地、鈴木寛子、加藤亜由美、中西和久、高島清子、鈴木道代、
刀根由加里、金児美季、岡田彩

事務局：西浦美奈子、森本亜由美、鈴木智美、浮田恵、加藤知孝、若林由子、西井哲史、
勝田茂樹、荒木章次、池田博紀、西浦有一、小泉恵希、山岡恵、北川高宏

配布資料：

- ・第36回松阪市子ども・子育て会議事項書
- ・【資料1】「松阪市こども計画（案）」
- ・【資料2】「令和6年度松阪市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）策定スケジュール

〔議事録〕

1. <開会>

2.

西浦こども局長あいさつ

皆さんこんばんは。お仕事終わりのところ、またお忙しい中、このようにお集まりいただきましてありがとうございます。本日は第1期松阪市こども計画を作成していくにあたり、素案ができて参りましたので、ご審議賜りますよう、よろしくお願い致します。松阪市では、市のめざす姿を、“すべてのこどもが夢の希望を持ち、こどもの笑顔が輝くまち”としています。“こどもまんなか社会”の実現の上で、皆様の様々な事例からご意見をいただき、進めて参りますので、本日もどうぞよろしくお願い致します。

青木会長あいさつ

皆様こんばんは。座って失礼させていただきます。前回の会議が9月26日で、随分、日がたっておりますので、少し記憶を戻していききたいと思います。前回は第2期子ども・子育て支援事業計画の事業評価、子ども子育て支援事業の実績に基づく今後の見込みなどを審議いただきました。まだ新たに“こども基本法”に基づくこども計画策定に向けて、趣旨説明があり、“子ども・子育て支援法”に基づく第3期となる子ども・子育て支援事業計画を包含すること、策定スケジュール、こども計画にこどもの意見を反映するための小中学生アンケート案、こども若者アンケート案について説明があり、ご承認をいただきました。

本日は前回以降実施してきたアンケート内容や、子ども子育て支援事業、事業計画部分の見込み量に関する、確保方策等の内容を盛り込んで、こども・若者施策に対する課題を解決する松阪市こども計画案として、皆様にお示しさせていただくことになります。本日は本当に欠席の方が多くて、少人数でありますので、ご活発にご意見をいただければなと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

3. 議 事

（1）松阪市こども計画（案）について

事務局

・事務局より、【資料１】「松阪市こども計画（案）」を説明

（質疑応答・意見交換）

委員

１ページの「第１章 計画の概要」の「計画策定の趣旨」について“こども基本法に基づき～”や“こどもの権利を守る～”といった表現が出てくるが、“こどもが一個人として尊重され～”というニュアンスを出していくべきではないでしょうか。

事務局

ご指摘の通りと考えます。加筆・修正させていただきたいと思います。

会長

前回の会議で小中学生を対象としたアンケートの内容が示されたが、実際実施してみて、現場の様子はどうでしたでしょうか。

委員

現場の感触としては特に問題ありませんでした。答えにくいという意見も見受けられませんでした。

委員

小中学生へのアンケートの結果で、「周りの人から大切にされていると思うか」という質問に対し、「そう思う」「だいたいそう思う」が合わせて９割を超えている。残りの１割に対して、市として取り組みを進めていってほしいと思います。

また、アンケート結果を見ると、ヤングケアラーや訪問支援の認知度が低いと感じます。こどもたちへの周知は難しいのでしょうか。周知等のために何か取り組みをされているのでしょうか。

事務局

ヤングケアラーについては、まず、市として理解を深め、そのうえで今後取組を深めていくことを考えています。

委員

学校現場でも、ヤングケアラーという言葉聞き始めたのはつい最近のことです。今後、理解を深めていく部分だと思います。

会長

アンケート結果上では、回答者の約半数がヤングケアラーを知らない。ヤングケアラーと

という言葉だけが独り歩きしないように、中身を中心に考えていく必要があると考えます。

委員

保育園・認定こども園・学童など、こどもたちが安心して過ごせ、また保護者さんが安心してこどもを預けられるように支援をお願いしたいと思います。

委員

計画の対象者がこどものみと認識していましたが、若者なども計画対象に含まれるのでしょうか。アンケートは市内約 12,000 人の小中学生を対象に実施されているが、回答者は約 1,300 人となっており、回答していないこどもたちへの施策はどうするのでしょうか。支援から漏れるこどもたちがいないように取り組みを進めてほしいと思います。また、「権利条約について学習が必要である」と課題のところに記載されていましたが、それであれば具体的な対策を記した別ページを作成するなどの工夫が欲しいです。また、「意見表明の機会の充実」について、具体的にどうするかを記載してほしいです。

事務局

「こども計画」では、計画の対象をこどもに据えながらも、それに限らず対象としてよいとされています。国のガイドライン等でもその旨が示されているので、それに準拠したかたちで制定されています。ご指摘のとおり、アンケートを回答していないこどもたちへの支援も対象としていく必要があります。現在、各関係課には取り組み等の状況について確認等を依頼している状況です。その上で詳細に記述できる部分については対応してまいりたいと考えております。

委員

例えば、近来、こどもの貧困が社会的話題となっていますが、それはアンケート調査では表れてきづらい内容だと思います。事務局がアンケートを集約するなかで、気になる部分はどれくらいあったのでしょうか。アンケートに表れない部分に対して、どう取り組んでいくのでしょうか。

事務局

子ども・子育て支援事業計画にかかるニーズ調査の結果を見ますと、就学前児童の保護者の方や就学児童の保護者の方を対象に調査をしたアンケートの内容で、経済的な理由による経験として「必要な食糧が買えなかった」「必要な衣料が買えなかった」など、いくつかの調査結果が出ております。その結果は丁寧に分析する必要があると考えますし、各関係機関が連携し、こどもたちの状況に注視しながら対応していく必要があると考えます。

委員

このアンケートを、こどもたちに寄り添う第一歩としていただいて、今後取組を進めていただければと思います。

委員

金融機関として、市の学校支援課と相談しながら、中学校と小学校の高学年を対象にインターネットでの課金とかクレジットの危険性が重要視されていることから、そのような内容に関する講座を開催できないか検討しているところです。地域の企業としても、様々な形で市の取組に協力していきたいと思います。

会長

こどもが大学に入学するまでにいくらくらいお金が必要かという講座を聞いたことがあります。ソフト面での施策のみならず、そういった講座等についても需要があると思います。

委員

保育園・こども園に関して、早朝保育のニーズが増えている。中々対応できる職員が集まらない。事業をするには人手がいるが、人材確保が難しい。現在は働き方も変わってきており、働きやすい環境にはなっている。ただ、保育士になりたいという人が減ってきており、現場としては大変に感じるがあります。

会長

高校生の数が減ってきています。上手く市と連携しながら、保育士確保に務めていければ良いと感じます。

事務局

市としては職場環境の整備等といった取組を行っております。ただ、なかなか保育士志望の学生が減ってきており、潜在保育士の発掘もなかなか結果に結びついていない状況です。今年度から保育園の見学ツアー等の取組を新たに実施しています。多彩な角度から保育士確保に努めておりますが、今後も引き続き尽力してまいりたいと考えております。

委員

親子参加のイベントを実施すると実感するのですが、参加される方のこどもさんの低年齢化が気になっています。しかも参加される方のほとんどが育休中であり、いかに共働き家庭が増加しているかということを如実に表していると思います。今後も共働き家庭は増加していくと思われますので、そういった将来の見込みを踏まえたうえで、計画の策定をお願いしたいと思います。

会長

アンケートの結果や、私の実感も踏まえてですが、“休日に親子で安全に遊べる場所”に対するニーズがとても大きいと感じています。

事務局

市では健康センターはるるでは、土日にキッズスペースを開放し、各種イベントを実施しております。各地域団体等と連携しながら今後も継続していく予定です。

委員

休日にこどもと市内の公園にいくと、お手洗いがとても綺麗に整備されていて感心します。今後、新たに施設整備を進めていただく場合は、こどもにも使いやすいお手洗いの整備をお願い致します。

委員

現状、共働きしないと生活できないような社会状況になってきていると思います。先ほども言及がありましたが、共働き家庭でも子育てがしやすい環境整備をお願いしたいと思います。また、アンケートの待機児童に関するところで、4月段階ではゼロであっても、10月段階では30人程度発生している。おそらく人間的にいっぱいいっぱいということだと思いますが、どうにかして解消されると良いと思います。

事務局

募集があったこどもさんに応じて保育士を割り当てているため、4月時点での待機児童の数はゼロとなっています。10月の段階では育休等の事情により、待機児童が発生しております。

なかなか保育士の人員に余裕が無いため、年度途中においては対応が出来ていない部分がございます。ただ、本市の保育園の希望申込からその決定までの対応につきましては、他市町と比較しても早い対応となっているかと思います。

委員

毎年10月の段階で、30人程度待機児童が発生するのであれば、それなりの対策は講じられないのでしょうか。お金をかけてでも、対応が必要だと考えます。

事務局

やはり保育士の確保が難しく、対応に苦慮しております。先ほど申し上げましたとおり、学生さんを対象とした保育園のバスツアー等の事業も実施しております。今後も引き続き、人材確保に努めてまいりたいと考えております。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局

・事務局より、【資料2】「令和6年度松阪市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）策定スケジュール」を説明

（質疑応答・意見交換）

なし

4. 閉会

会長

よろしいでしょうか。それでは、これで本日の会議を終了させていただきます。

皆様のご協力のおかげをもちましてスムーズに進行することができました。本日はたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。

本日は、ありがとうございました。

司会

青木会長、大変ありがとうございました。

委員の皆様、本日は長時間にわたりまして誠にありがとうございました。

これをもちまして松阪市子ども・子育て会議を閉会とさせていただきます。

お帰り際には、十分お気をつけてお帰りください。